

日本薬学会 第132回年会（札幌）シンポジウム

「天然物化学の新しい潮流」

オーガナイザー：阿部 郁朗（東大院薬）

脇本 敏幸（東大院薬）

日時：平成24年3月29日（木） 13:30～16:30

場所：高等教育推進機構 S2

薬学における天然物化学の歴史には長井長義博士のエフェドリン以来、輝かしい数々の功績があり、周辺多領域へさまざまな波及効果を及ぼしてきた。1つの生理活性物質の発見がその後の化学、生物学に絶大な影響を及ぼし、新領域を開く契機となることはプロスタグランジンの事例を見るまでもなく明らかである。一方で近年の天然物化学は単離・精製および構造決定を基盤とする古典的な生理活性物質の探索からケミカルバイオロジーへの展開へと分野を拡充し、より多面的な広がりを見せつつある。しかし、天然由来の新規な生理活性物質の重要性はいつの時代も変わらず、そこに立ち位置に定めることに変わりはない。むしろ天然物から周辺多領域へ展開する姿勢は天然物化学の本懐とも言える。本シンポジウムでは天然物を足場とし、ケミカルバイオロジーへ展開する新しい天然物化学を牽引するシンポジストを招き、過渡期にある天然物化学の将来像を模索したい。

【プログラム】

オーガナイザー挨拶

（東大院薬） 阿部 郁朗

未利用遺伝子のエピジェネティックな発現制御を介する糸状菌二次代謝物の創生

（東北大院薬） 大島 吉輝

生体膜を解析する化学遺伝学

（京大院薬） 西村 慎一

海綿由来細胞毒性物質カリクリンAの生合成遺伝子クラスターの探索

（東大院薬） 脇本 敏幸

海綿由来興奮性アミノ酸ダイシハーベイン

（北大院水産） 酒井 隆一

糸状菌 *Phomopsis amygdali* が生産するフシコクシン生合成マシナリーの解明と応用

（北大院工） 大利 徹

苔類：化学多様性・生物活性・ケモシステマテイクス

（徳島文理大薬） 浅川 義範

総括

（東大院薬） 脇本 敏幸

問い合わせ先：阿部郁朗 TEL: 03-5841-4740 E-mail: abei@mol.f.u-tokyo.ac.jp